

## 友松対談 ③

## 懐旧談「横浜国大草創の頃」 (2)

出席者 今川良一、小池亮太郎、岡 (旧姓 井上) 安男、  
原田徳夫 (いずれも昭和 28 年卒・国語専攻の国大 1 期生)  
司 会 黒川鈴谷 (昭和 35 年卒) 【平成 23 年 9 月記録】



(写真は左から、岡・今川・原田・小池の各氏)

司 会 本日はご多忙のところ、また暑さのなか四人もの先輩にお集まりいただきまして、有難うございます。7 月 7 日付けで発行しました磯子支部だより第 3 号では、国大 1 期生で社会学専攻の生出久雄先生に、国大発足時の思い出を語って頂きました。その折、生出先生は「なにぶん昔のことなので思い違いがあるかもしれないから、他の人にも聞いて欲しい。」とのことでした。そこで今日、四人の国大 1 期生の方にお出でいただいたわけです。

四人のうち岡・今川・小池の三人の方は、師範の学生から国大を受験されたのですね。その三人のうち岡先生は昭和 20 年 4 月に師範の予科に入学されたとのことですが、20 年 4 月というとアメリカとの戦いも最終局面を迎えた頃で大変な時代だった訳ですが、やはり寄宿舎に入られたのですか。

岡 入りました。

司 会 支部だより第 1 号で戦中・戦後の師範出身の方に、昭和 20 年頃には食糧難から寄宿舎で食事を出せず、自宅待機となったという話を伺ったのですが、先生が入られた時には寄宿舎で食事は出たのですか。

岡 出ることは出ましたが、ご飯の中にワカメの茎やカボチャなどが入っているひどいものでした。だから私は今でもカボチャが嫌いです。味噌汁も初めは付いていましたがそのうちに味噌が無くなったらしく、その後は味噌の代わりに海水を入れて塩味をつけた汁になりました。1 年生の当番が 2 人で組んで樽を持ち、由比ガ浜に海水を採りに行くのです。

私の実家は三浦半島の農家なので、戦争中でも食料は比較的余裕がありました。ですから寄宿舎のこの食事には弱りました。二ヶ月に一度くらいの割合で土曜日に家に帰る外泊が許されるのですが、その時は日頃の足りない分までしっかり食べ、寮に帰るときにはおにぎりをたくさん作ってもらい持って帰りました。そのおにぎりを寮に残っていた先輩などが大喜びで食べるのです。

司 会 本当に大変な時代でしたね。あの時代は日本もどん底でしたからね。小池先生と今川先生は、昭和 23 年に師範の本科に入学されたのですね。

小 池 私は昭和 23 年の 3 月に旧制中学を卒業して、4 月に師範に入りました。師範に入って教師になろうと思ったのです。中学生なりに時代の変化を感じ、戦後の新しい時代を支える教師になろうと思ったのですね。

今 川 私は神奈川県の実家から、旧制中学校に進学するために徳島県の親戚の寺に行っていたのですが、新制高校 1 年に進学した 24 年に実家からの知らせで神奈川師範の本科の追加募

集があると聞き、こちらに戻ってきて6月に師範に入学しました。

司 会 皆さんそれぞれ様々な道をたどって国大に来られたのですね。ところで国大学芸学部の前身は師範なので、岡・小池・今川の三先生が国大に進まれたのは納得できます。ただ原田先生は旧制湘南中学のサッカー部で全国優勝され、新制湘南高校を卒業されてから国大学芸学部に進学されたとのことですが、その理由とか動機は何だったのでしょうか。

原 田 私の父は大正9年神奈川師範卒で川崎に勤務し、田島・新町・桜本各小学校の校長を務めたあと、当時の県視学になりました。ですから私が国大に入学した時は、父は大喜びでした。また私の母校湘南高校の友人の中には、鎌倉付属小出身の者も多数いましたので鎌倉には親近感もありました。国大に進んだ後もサッカー部の活動を続け、現在も国大サッカー部の名誉顧問を務めております。

司 会 成程よく分かりました。国大に進んでお父様の後を継ぐという目標があったのですね。



師範・国大鎌倉時代の校舎

ところで師範から国大に進学された三人の方にお尋ねしたいのですが、その進路変更はスムーズに出来たのですか。「途中で進路変更するとはけしからん。」というお叱りのようなものは、師範の先生からありませんでしたか。そもそも新制横浜国大ができるというような情報は、どのようにして分かったのですか。

小 池 そういう情報は師範の先生が全部教えてくれました。まず学生全体に今度新学制のこういう大学が出来るという話がありました。話の内容としては「けしからん」など言うことは全くなく、むしろ大学への進学を勧める感じでした。

師範は学級担任の先生がおられたので、その担任の先生から学生に対して指導がありました。私の担任は熊谷先生(漢文)でしたが、新しい時代の教育に対応するために国大への進学を勧められました。

岡 私の担任は間宮先生(心理)でしたが、国大についての学生への指導は、今のお話と同じでした。

今 川 私の場合は担任が発智先生(法学)だったが、指導の内容はお二人と全く同じです。国大には4年課程と2年課程とが出来るがどちらに進んでも良い、またこのまま引き続き師範に在学しても良いということでした。

岡 私は師範の先生に勧められて国大に進学して、そのことは良かったと思います。でも私は予科からですので、予科3年・本科1年、それから国大4年と合計8年間在学しました。私の村の1年先輩の人が予科・本科と5年で師範を卒業して学校に勤めたので、村の人に「あんたはどうしてそんなに長く学校に行っているんだね。」と聞かれて閉口しました。

司 会 一般の人には、制度が変わったなどとは分かりませんからね。いや今うかがっている私でさえ、なんだか分かりにくいなあと思います。でもとにかく師範の学生が新制国大を受験するのに、何の障害もなかったのが良く分かりました。

しかしこれはまたちょっと違う問題なのですが、師範学校というのは給費制度で学費や寄宿舎費・食費などは全く必要ありませんでしたね。戦後もこの給費制度はあったのでしょうか。もしあったとすれば、師範から国大へ進学することは経済的な問題が生じたと思いますが。

小 池 師範本科のときまで給費制度がありました。新制大学になってからは教育奨学金という形で支給されました。月額幾らでしたっけ。

岡 たぶん 1,600 円だったと思います。

小 池 その他にも担任の先生の助言で、私は日本育英会の奨学金も戴きましたので、授業料を払っても本を買うゆとりがありました。日本育英会の奨学金と違って、教育奨学金は卒業後 5 年間教職に就けば返還の義務が免除されました。また、教職を希望しない人も居たので、教育奨学金は辞退することもできたように思います。



昭和 18 年当時の 神奈川師範男子部の職員

よく見ると、国大時代の恩師の顔も見える。

岡 私はその教育奨学金で、昭和文学全集を買いましたよ。

今 川 師範から国大に進学した者は皆教育奨学金を貰っていました。原田さんは新制高校からの進学だが、教育奨学金は貰っていましたか。

原 田 いや、私は貰っていません。

司 会 師範出身者にだけ支給されたとする、この「教育奨学金」というものは給費制度の代償だったのですかね。

今 川 しかもこの奨学金は、中学校課程の学生か小学校課程の学生かによって支給される金額が違っていたと思います。黒川さんたちの頃には、この教育奨学金はありましたか。

司 会 いや、ありません。日本育英会の奨学金はありましたが、これは全員が無条件で貰えるものではありませんでした。

ところで 1 期生の生出先生のお話では、国大最初の入試は 5 月に行われたというのですが、何故 5 月だったのでしょうか。普通は 2 月か 3 月ですよ。

小 池 確かに入試は 5 月に行われました。なぜ 5 月だったかという、横浜国大が新制大学として発足したのが昭和 24 年 6 月だからです。2 月や 3 月ではまだ大学として発足していないので当然入試も出来ず、入試を実施できたのは大学発足の目途がたった 5 月になったのでしょうかね。

岡 入試の結果発表はたしか 6 月で、入学式は 7 月に清水ヶ丘の経済学部でやりました。

今 川 授業が始まったのは、9 月からだったと思います。

司 会 ところで、支部だより 3 号に載せた生出先生の話によると、国大 1 期生の入学者は約 150 名とのことで、私たちの頃と比べるとかなり少ないのですが。

小 池 『横浜国立大学教育学部のあゆみ』という本がありますが、それによると、初年度の学芸学部定員は 160 名ですが、実際の入学者は 134 名で、そのうち女子学生は僅か 4 名です。女性が少ないのは併設された 2 年課程(短期大学相当)に女性が多く入学したからで、2 年課程 107 名の入学者中 62 名が女子学生でした。その他に 1 年課程の研修科もありました。

司 会 なるほど何故 1 期の入学定員が少なかったか、それで分かりました。4 年課程の学生の他に 2 年課程・1 年課程、更に師範の在生もいる状態で、鎌倉の校舎が満員状態だったからでしょうね。

もう一つ確認したいのですが、1 期生の時には「国語」とか「数学」とかいう学科別の募

集でなかった言うことですが、本当ですか。

岡 本当です。入学した時には、細かい学科の区別はありませんでした。

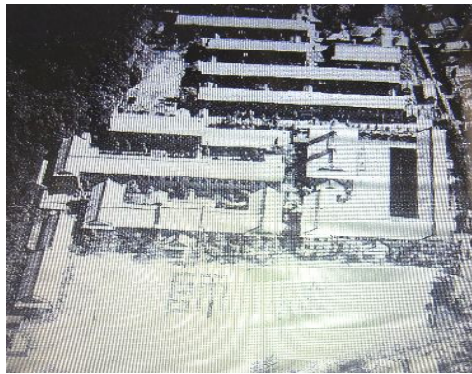
司 会 大雑把に文科・理科の二つに分けるといふことも無かったのですか。

今 川 それも無かったですね。

司 会 私は第8期生ですが、入学した時から専攻の科別が決まっていた。創立から十年経たないうちに、どうしてそんなに変わってしまうのでしょうか。すると1期生の頃には2年間の教養課程の間は学科にとらわれずに自由に学習し、その学習を基にして2年経ったら自分の専門を決めるといふことだったのですか。

岡 いや、2年たった時そこで決めたといふのはなかったですね。

小 池 2年たったから決めようといふのではないんです。師範の時にはクラス編成で、学級担任



の先生もおられた。しかし国大ではクラスは無く、学級担任の先生は居ないので自分がやろうとすることを自分で決めて、そのために必要な単位を取っていくといふ体制でした。私の場合は中学校一級(国語・社会)と高校二級(国語・社会)、小学校一級の免許状をとるために必要な単位を取りました。3年になって卒業論文の課題を決めた時から「国語科・国語教室」の意識が強くなっていきましたね。

昭和10年、神奈川県師範学校時代の鎌倉校舎

今 川 私は在学中初めは、自分が国語科とか国語教室所属とかいふ意識はありませんでした。

司 会 でも卒業論文を書く時には指導教官をお願いするので、そのときに国語の教官をお願いすれば国語科、歴史の教官をお願いすれば歴史科といふように自然に決まってくるよね。

今 川 卒論のことで思い出したのですが、私が3年生の中ごろになっても、テーマが決まらず困っていた時のことです。八島先生から「平中物語について研究してみないか。」とお声をかけて頂きました。当時はまだ、その存在が紹介されて間もないし、研究している人も稀でした。先生は「原本は二子玉川の静嘉堂文庫に一冊あるのみなので、閲覧できるように一緒に行ってお願ひしてあげよう。」と、何度も私を伴い静嘉堂文庫へ足を運んでくださいました。その後、桜井祐三先生からも、大和物語との関連について、ご指導頂きました。卒論の表題の「平中物語研究」は、中山鶴雲先生に書いて頂きました。今思えば、先生方は大学生としての有り様を懇切に指導してくださっていたのだと思います。

岡 私たち四人が桜井先生の研究室に入れていただくといふのは、何年生のときだけ。

今 川 それは2年生位の時じゃなかったですか。

原 田 3年の時ですよ。私がああとき桜井先生に強引にいふお願いしたのです。

岡 少なくとも私たち四人が国語科といふのがはっきりしたのは、その時からだね。

司 会 お話を伺っていると創立当時の国大学芸学部の制度、学生各自が好むところから学習し、その学習の過程から得られたものによって各自の専攻を決めていくといふのは、非常に理想的な制度ですね。敢えて言えば「理想主義的な」制度ですが。

今 川 いま考えると、確かに理想的な良い制度でしたね。

司 会 でもその理想主義が何故十年もたない私たちの時代には無くなったのでしょうか。

- 小 池 だんだん新制大学のあり方が定まり、整備されていったのでしょうかね。
- 岡 あの時分は発足したばかりで、どんな方式でやっていくかについて、大学当局にも整理が出来ていなかったのかもね。
- 原 田 試行錯誤していたのかもしれないね。
- 小 池 試行錯誤かもしれないが、いま考えると非常に自由なものがありましたね。私は絵を描くのが好きだったので美術もやってみようと思ったのです。そこで美術の講座に出席したのですが、出席して実習に参加しているうちに国語との両立は無理と感じて、国語と社会にしぼることにしました。とにかくそんなこともありました。
- 岡 教員免許をとるのが目的でなく医学部進学を目指す人も、数人だがいましてね。その人たちは2年間の教養課程が終った後、実際に医学部を受験しました。島根か鳥取の大学の医学部に進んで医者になり、いま横浜で開業している人がいます。
- 司 会 ずいぶん自由な制度だったと思いますが、この自由な制度はいつから変わったのでしょうか。
- 原 田 私たちがいた4年間の間には、学科別の募集というのは聞かなかったね。(全員うなずく)
- 司 会 それで4年後に皆さん卒業されたわけですが、どちらの学校に赴任されたのですか。
- 小 池 私は横浜の学校ですが、初めは中学校の国語か高等学校の国語の先生になりたいと思っていましたが、小学校の体験をしてからやる方がよいとの助言を受け、小学校に着任しました。ところが最初から6年の担任でした。後にどうして新卒なのに6年だったのかと校長さんに尋ねたことがあるのですが、「今度着任するのは新しい教育を受けてきた人だし、大学出の教育学士だから大丈夫だろう、というのでその学級の担任に決めた。」とのことでした。そのくらいある意味で期待されていたんですね。
- 原 田 私も国大を卒業してすぐに、鎌倉の付属小の教官になりました。これはちょっと異例のことだったのですが、やはり国大の卒業生を試験的に新卒の段階で採用してみようということだったようですね。私と横須賀出身の人とが付属に行きました。私はその後19年教諭として付属におり、いったん外に出た後で副校長としてまた付属に戻りました。
- 小 池 国大に入った初めの頃に「校長講座」のような単位がありました。たしか学校経営のような内容だったと思います。私も一応受講したのですが、そのうち途中でその講座は無くなってしまうようになりました。初めの頃はそういうこともありましたね。
- 今 川 そう言えば新卒で赴任した学校で、私は先輩の先生に「俺たちと違って、あんたたちは校長免許を持っているんだからなあ。」と厭味を言われたことがありますよ。
- 司 会 いろいろなお話を聞かせて頂いて、発足当時の国大のことがだんだん分かってきました。。今日は暑さのなか、お集まり戴きまして本当にありがとうございました。本日の会合はこれでお開きとさせていただきます。

